

芭蕉・奥の細道

俳句を始めて 9 年近くになる。未だ初心者の域を出ないでいる。もともと国語が苦手であった。漢字が読めない。そして書けない。学生時代から劣等生であった。にもかかわらず無謀にも俳句に挑戦し続けている。それは 5・7・5 のたった 17 文字という世界最短の定型詩に魅力を感じたからである。

俳聖・松尾芭蕉を顕彰する施設の一つに山形市内に「山寺芭蕉記念館」がある。これは芭蕉がこの地に訪れて 300 年目、同時に山形市制施行 100 周年を記念して設置されたもの。外観は山寺一帯の景観と調和した和風平屋建て。館内では芭蕉の資料や直筆の作品などが展示されている。また短編映画の上映があるほか、研修室、茶室の利用もできる。芭蕉は 46 歳にしてここ山形県内を約 40 日間滞在しており、たくさん



「閑さや岩にしみ入る蟬の声」

「五月雨を集めて早し最上川」

芭蕉は 1689 (元禄 2) 年に江戸深川を出発し、全行程約 600 里 (2400 km)、日程にして 150 日間を東北、北陸を巡って江戸に帰ってきている。「奥の細道」ではこのうち武蔵から美濃大垣までの間を、俳句をふんだんに盛り込んだ紀行文を書いている。序文は「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也」から始まっている。

ここに来て芭蕉の偉大さに触れて名句を作ろうと雨の中を散策した。しかし残念ながら一句も出来ずにこの地を去った。時間的余裕？がなかったのだ。残念！

撮影 2014 年夏

